

ジャンボタニシに注意してください！

5月14日の病害虫防除所が実施した用水路のジャンボタニシの卵塊（図1）数調査によると、県南部の3地点すべてで平年よりも卵塊数が多く（図2）、水田内や用水路での個体数が平年に比べて多いことが推察されます。今後、本格的な田植え時期を迎えますので厳寒期の対策を行っている場合でも十分な対策を取ってください。



図1 用水路壁に産みつけられたジャンボタニシの卵塊(7月の状況)

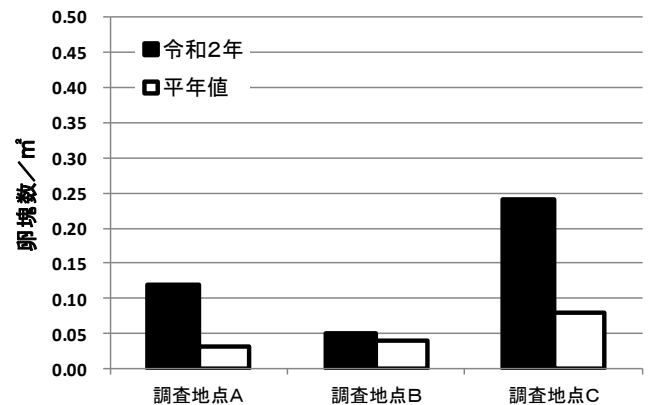


図2 5月調査時におけるジャンボタニシの卵塊数比較

<防除対策>

- 1 水田の取水口と排水口に金網（目合い2cm程度）等を設置し、用水路からの侵入を防ぐ。
- 2 水田内、用水路等のジャンボタニシの捕殺に努め、卵塊は早めに払い落とす。
- 3 田植え後20日程度までは、深水にならないような水管理に努める（2016年（平成28年）には、6月中下旬の多雨で深水となったほ場で、甚大な被害を受けた事例もみられた）。
- 4 被害が予想される場合、田植え後のすみやかな薬剤防除も検討する。

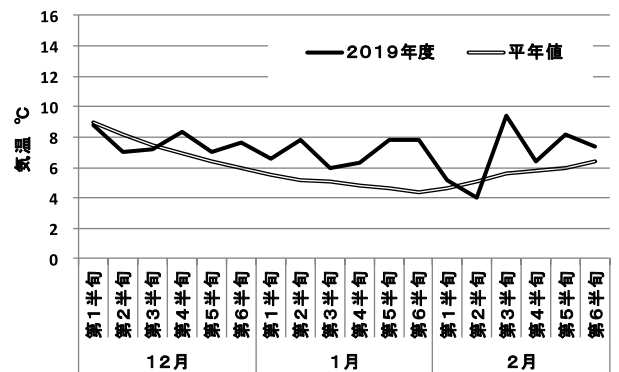


図3 厳冬期における平均気温の比較（アメダス岡山地点）
（平年値は1981～2010年の30年間の平均値）

<参考事項>

- 1 本年は暖冬傾向で推移（図3）したためジャンボタニシ（和名：スクミリンゴガイ）の越冬個体数が多いことが予想される。
- 2 岡山県植物防疫協会のパンフレット「ジャンボタニシ（スクミリンゴガイ）がいませんか？」参照（別添）。

この情報は、岡山県病害虫防除所ホームページでも公開しています。
アドレスは、<http://www.pref.okayama.jp/soshiki/239/> です。



ジャンボタニシ スクミリンゴガイ がいませんか?



成貝(約7cm)

これがスクミリンゴガイ (ジャンボタニシ)

● 法面に産み付けられた卵塊



● イネに産み付けられた卵塊



どんな被害がある?

田植え直後のイネを食いちぎったり、水面に浮かぶ葉を引き込むように食害します。被害が多ければ欠株になり、収量に影響することもあります。田植え後約20日間のイネがやわらかい時期に被害を受けやすく、苗が大きくなると被害が少なくなります。1cm以下の幼貝はイネの茎を食害できません。乾田直播栽培では、イネが硬くなったのちに入水するので、被害は比較的問題になりません。



イネを食べるジャンボタニシ

● 被害にあった生育初期のイネ



● 被害にあった水田



ジャンボタニシ スクミリンゴガイから イネを守ろう

水稻生育期に取り組む ジャンボタニシ対策

●用水路から侵入させない

水田の取水口と排水口に金網(2cm以下の細かい目)を設置し、金網の外側にはゴミが詰まらないよう、目の粗い網を設置します。



取水口に設置した金網

●田植え後20日間は浅水管理する

水深が4cmを超えると被害が生じやすくなります。

●田んぼ内と周辺のジャンボタニシを減らす

水田内、用水路などのジャンボタニシの捕殺に努め、卵塊は早めに水面下へ払い落とし、卵がふ化できないようにします。

●農薬で防除する

- スクミノン 1～4kg/10a・収穫60日前まで・2回以内
- ジャンボたにしくん 1～2kg/10a・収穫60日前まで・2回以内
- クタジンP粒剤 3～5kg/10a・本田初期・2回以内
- スクミハンター 1～2kg/10a・収穫45日前まで・3回以内
- スクミンベイト3 2～4kg/10a・発生時・一

(注)主な登録農薬を示した。ただし、「スクミノン」と「ジャンボたにしくん」は同一成分を含むため散布回数に注意する。

散布後、
7日間は落水、かけ流しは
しないようにしましょう。

農薬のラベルに記載された
使用方法、使用上の注意事項を
守って使用しましょう。

※特に魚毒性等については、十分注意してください。

用水路などのジャンボタニシは 地域ぐるみで退治(捕殺)しよう

(一部のみの捕殺ではなかなか効果があがりません)